

<2019年全国事務局長会議>

連合・相原康伸事務局長あいさつ要旨

今日から春季生活闘争 2019 が行動開始した。企業内や地域で中小や非正規労働者の労働条件を引き上げ、格差是正をはかる。理念や理想、信念を打ち立て、みんなが集まっていくことは、大変大事だ。

私は一人の人間として今の社会情勢を頭において運動をすすめていきたいと思っている。時代を感じると言えばトランプ大統領の所業につきる。懸念するのは、例えば気候変動枠組み条約からの離脱。多国間主義を否定するのであれば、私たち人類の行く末は、危ういものになる。これは私たちの共通の理解ではないか。「自分だけよければいい」ということであれば、国際社会も地域社会もあり得ない。「支え合い」「助け合い」で如何なる社会をめざすかは、人類の英知と思う。ツイッターを使い国際政治を指一本 140 字の中で動かしてしまうことも脅威だ。

もう一つ、「統計不正問題」。共通するのは、耳障りの悪いことは憚られ、いいことだけ首相が耳にしていることの危うさだ。そういう雰囲気や風土があるとすれば、日本の将来は約束されない。

連合は本年10月に結成30周年を迎える。この機に退職者連合のみなさんと新しいスタートを切りたい。私たち連合の現役は700万人。地域における連合OB、OGのみなさんは800万人。あわせて1,500万人が連合の総合力だと言っていい。退職者連合のみなさんは貴重な地域の財産です。この地域財産のネットワークを大いに期待しながら、連合は運動を進めて行きたい。